

イメージしてください。

「よく撮れてる」写真の「よく」って、何が？

新しいデジタル式のミニラボ機は、

何がいいのかを「よく」知っています。



©Rose O'Neill Kewpie Japan

👉 写真を受け取るときって、ちょっとドキドキします。自分がどんな顔で写っているか。気になるのはやっぱり顔です。できるだけ若々しく健康的な笑顔がいい。なのに、なんだか顔色のさえない私……たとえば、夜間の室内で。どこでも気軽に撮るスナップ写真では、撮影条件の悪さがそのまま「顔」に出てしまうことがあります。フジフィルムの開発したデジタル式ミニラボ機（お店で現像・プリントする機械）「フロンティア」ならば、そんな写真も自動的に画質を補正してくれます。プロのモデルの撮影では、事前に照明をセッティングしたりメイクアップアーティストがついたりしますが、デジタルミニラボ機の中には、撮影後に手直ししてくれるメイクや照明のプロがいるようなもの、といえわかりやすいかな。

👉 それにしても、どうして機械に顔の認識や、色の良し悪しの判断ができるのでしょうか。そこは、長年写真を扱ってきたフジフィルムならではのもの。自動補正は、進んだデジタル技術である一方、それをどう生かすか、ストロボ使用時の赤目の解決から、逆光シーンや露光の過不足、微妙な顔色の好ましい表現など、そのソフトもまた重要です。方法はデジタルでも、そこに生きているのは写真表現のノウハウの蓄積なのです。

👉 つまり、デジタルミニラボ機「フロンティア」は、デジタルの達人であると同時に、銀塩写真の職人でもある。どちらの入力、どちらの出力にもその腕を奮います。現像したフィルムにデジタルで高度な補正を加えて、美しい写真プリントにする。デジカメで撮った画像も同じ高画質の写真プリントにできますし。その注文をネット経由でして、お近くのフジカラーのお店で受け取ることもできます。逆に、写真フィルムの映像をデジタルにするフジカラーCDも。写真はこれから、ますます面白くなっていく。写真とデジタルの融合は、imageをますます広げていきます。

👉 国境やことばを越えたコミュニケーション。それが、image。人間の知的精神的活動が発達するかぎり、imageの創造と蓄積は加速度的に拡大しつづけるでしょう。私たちは過去に例のない質と量と速度の「imageの世紀」を、すでに迎えています。光学、化学、電子工学から人間を知る認知科学の領域まで。「imageを科学する」世界的フロンティアとして、フジフィルムは21世紀のメインストリートを進みます。

5

VOL.
デジタルミニラボ
Frontier
FUJIFILM
I&I-Imaging & Information
www.fujifilm.co.jp

imageする会社。FUJIFILM